

特別選抜入試

《国語》

サンプル問題

60分／100点

このサンプル問題は、二〇二一年度国際学級入学試験（令和三年一月一〇日実施）において実際に出題された問題を題材にして、記述式解答を求める出題を想定して作成しています。

サンプル問題は受験生の皆さんと具体的なイメージを共有するために作成・公表するものであり、出題内容や出題数などは実際の問題とは異なる場合があります。ご了承ください。

問いのあとにあるマス目は記述解答の下書き用にお使いください。

大問ごとの詳細は「特別選抜入試B方式《国語》について」をご覧ください。

一

次の傍線部を漢字に直しなさい。

- 1 首相のゴエイをする。
- 2 監督のリュウニンが決まった。
- 3 ソンボウの危機にひんする。
- 4 イクエイ制度を拡充する。
- 5 物事のゼヒを考える。
- 6 図書館のゾウシヨ数を調べる。
- 7 富士山の初日の出はアツカンの景色だ。
- 8 ミヨウバン、ご自宅に伺います。
- 9 コンクに耐えて大成する。
- 10 ここは市内有数のコクソウ地だ。
- 11 トウトい顔の仏様。
- 12 世の悪事がアバかれる。
- 13 事態が悪化するチヨウコウ。
- 14 手紙をキジヨウに置く。
- 15 山のイタダキで新鮮な空気を吸い込む。

二

次の各問に答えなさい。

- 1 次の表現の意味として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。
「魚心あれば水心」
ア 身の周りのことはかえって理解しにくいものだ
イ 生まれた環境次第で得意な分野が決まってくる
ウ 生まれながらの性質は習慣によって変えられる
エ 人は周囲の環境によって良くも悪くも変化する
オ 一方の出方によって他方もそれに応じようとする
- 2 「他山の石」という表現を正しく使っている文を次の中から選び、記号で答えなさい。
ア 今回明らかになったミスは他山の石にすぎない。今後も注意して動向を見守る必要がある。
イ 友人が突然勤め先を解雇されたが、私には他山の石とは思えない。自分にもいつ同じことが起こるかわからない。
ウ 後輩の失敗を非難ばかりしないで他山の石とすべきだ。君も同じ間違いをするかもしれない。
エ 彼はこつこつと真面目に取り組んだおかげで、大きな素晴らしい結果を残した。他山の石としたところだ。
オ 当社のこのたびの不祥事を他山の石として、今後の会社経営の改革に乗り出すつもりです。

- 3 次の傍線部の語句の意味として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

彼の話はあまりにも唐突で、すぐには理解できなかった。

ア 胸に突き刺さること

イ 信じられないこと

ウ 不意であること

エ 意味不明であること
オ 現実味がないこと

4 次の傍線部の敬語表現を正しく直しなさい。
「皆様、どうぞ食事をいただいてください。」

5 次の（ ）に入る四字熟語として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。
試験の結果を（ ）の思いで待つ。
ア 一望千里 イ 一刻千金 ウ 一瀉千里 エ 一日千秋 オ 一攫千金

三 次の文章を読み、後の問に答えなさい。

「社会の役に立つ」という言葉が、現代の科学のありようを考えるうえで、重要なキーワードになっていますので、視点を「社会」の側に移し、それが科学や科学技術をどう扱ってきたかを考えてみます。

今日本に暮らしている人で、科学技術にいつさい関わることなく日常を過ごしている人はいないでしょう。食事をしたり、どこかへ息抜きに出かけたりというなにげない日常のどこかに必ず科学技術が関わっています。しかしふしぎなことに、そのような社会に暮らしながら、多くの人が自分は科学とは無関係だと思っています。科学は好きではない、科学は難しいという方が多いのです。実はここにも問題があるのではないか、^①そこを変えていかなければならないのではないかというのが震災後強く感じたことです。皆さん科学を好きになりましょう、科学を楽しみましょうということではありません。科学にどっぷりつかりながら、それとは無関係と皆が言っている矛盾を解決していこうということです。

すでに述べましたが、専門家は、技術に関して絶対安全などという感覚を持つはずはありません。安全性を保つための努力を最大限に行なうことはもちろんですが、それでも実際に原子力発電所の場合、スリーマイル島やチェルノブイリで事故は起きたのです。もともと、その事故のありようを見て、日本の原子力技術は優秀なので同じような事故は日本では起きないだろうと思っていたところがあります。実は私もその一人でした。^②神話を信じてはいなくても、甘かったわけです。

ところが、思いがけない自然の力で、思いもよらず深刻な事故が起きてしまいました。最初に述べたように、ここで想定外と言っ2てはいけません。自然に対して想定はありませんから。別の言い方をすれば、事故はいつでも想定外で起きるものだと

も言えます。最大限の努力をしても思いがけないことはあるものとして受けとめなければなら2ないのです。そして、これは専門家だけの問題ではなく、日本の社会が事故に向き合う姿勢を欠いていたということではないでしょうか。文化なのかもしれません。考えてみるべきことです。

《中略》

現代社会の中での科学は、まず「役に立つ技術を生むための知識」とされているのではないのでしょうか。この「役に立つ」という言葉に、科学者も社会も縛られているのです。もちろん「役に立つ」ことは大事ですが、その意味をていねいに考える必要があります。しかも、科学と科学技術は決して同じものではありません。科学、科学技術、役に立つというような言葉を一つ一つていねいに考えることが必要だ2と思うのです。

子どもたちの理科離れを憂い、大人の科学リテラシーの欠如を嘆く声は、新しい科学技術開発とそれが生み出す新製品、そこから生まれる経済成長を求めているものになっています。その必要性を否定はしませんが、「自然科学」というように、科学の本来の姿は、自然と向き合うことであり、そこから自然観、人間観を生み出すことです。つまり、科学は一つの文化なのです。近年日本では、科学という言葉2を単純に科学技術に置き換えてしまい、文化として存在する科学そのものを忘れる傾向があります。

科学を文化とするなら、本を読み、絵を眺め、音楽を聴くのと同じように、誰もが科学と接することができて初めて、科学が社会の中に存在したことになるはず2です。ここで、^③作家や画家や音楽家が自分の作品を世に出すときに、コミュニケーションを求めたりするだろうかと考えてみると、今の科学のありようの不自然さが見えてきます。

私は、ここに科学の問題があると考えています。現在の制度では、科学が社会へと出ていく方法は論文と決められています。論文は、分野を同じくしている専門家に理解されればよいのであり、そのために必要で十分な事柄を書くための作法もきめられています。もちろん論文は重要な発信方法ですが、文化として科学が広く受けとめられることを考えた時には、あまりにも限定された対象への特殊な形での発信と言わざるを得ません。小説や絵や音楽とはまったく違います。しかも最近2は論文の数やどの専門誌に投稿するかなどによって評価されるので、ここでの競争に明け暮れることになります。震災後に、音楽家はすぐ被災地で歌2い人の心を明るくすることができ2るのに、基礎科学の研究者は何もできないことを痛感したと述べましたが、まさにそうなのです。

どうしたらよいか。ここで比較してみたいのが音楽です。小説や絵は作品がそのまま受けとめられますが、音楽は楽譜の状態2で理解することは一般の聞き手には難しく、演奏されることが必要です。ベートーヴェンが素晴らしいと思えるのは、オー

ケストラ、ピアノなどさまざまな演奏家という④「専門家」による表現があるからです。演奏家は楽譜を通して、音楽と同時に自分を表現します。私は、科学にもこの作業が必要なのではないかと思っています。コミュニケーターではなく表現者です。しかも、本来なら音楽も作曲家が演奏者でもある、シンガーソングライターが原点でしょう。モーツアルトもベートーヴェンも演奏をしていました。科学者も本来は、そうあるべきなのではないでしょうか。

「科学の表現」、これは重要なテーマです。コミュニケーターと言ってしまおうと科学の成果や社会でいかに役立つかを伝えることとなり、得てして広報となりがちです。^⑤論文という楽譜をいかに演奏するか、表現するか。後述するように、私の属する生命誌研究館ではこの道を探っています。

では、文化としての科学の表現に対して、広く一般の人々が関心を持つようにするには、科学者はどうすればよいでしょうか。

概して、人の話を聞く場合、大切なのはその内容と同じくらい、またはそれ以上にその人への関心であり、さらには信頼です。それがあれば少々難しいことでも耳を傾け、学ぶ気持ちになります。話上手でなくても惹きつけられます。

ここで思い出すことがあります。私が学生の頃は、湯川秀樹先生が日本で初めてノーベル賞を受賞され、朝永振一郎先生もその候補としてあげられるなど、物理学が輝いていた時代でした。ですから、朝永先生の講義をぜひ聞きたいと思い、憧れの気持ちで教室に行きました。先生は文章がお上手でし、みごとな講義をしてくださっているには違いないのですが、なにせお声が小さくボソボソと話されるのです。でも、先生の話を聞きたい一心で耳を傾けました。講義はわかりやすくなければならないという基準を作って学生に評価させるのが最近の風潮ですが、それとはまったく別の魅力でした。

幸い朝永先生も湯川先生も生物学に強い関心を持っていらしたので、大学院生になってからは、物理の難しい話でなくDNAや細胞についてのお話をする機会がありました。そのような時先生方は、常に新しい学問を学ぶ楽しさを感じておられるのがわかりました。科学に限らず、さまざまなことに関心を向けられている幅の広さが印象的で、これが若者を惹きつける力なのだと感じたのを思い出します。

教育とはまさに、こういうものでしょう。先生への信頼が基本です。最も大事なものは人間として語っているかどうかということです。それを考慮せずに、科学は難しい特別の分野とし、科学者・科学技術者は、普通の人と同じ考え方ができない、普通の言葉も話せない人としてしまうことには疑問を感じますし、それをしてはいけないと思います。

専門のことはそれを専門とする人が最もよくわかっているのですから、その人に聞くのが最もよいはずです。私は仕事の中で専門の異なる方たちと話す機会が多く、その場合、数学、情報科学、言語学など、なじみのない分野の話を聞くこともよくあります。それらをすべて理解することなど到底できません。正直、難しいと思います。でも、お話の中から自分にとって本当に大切なことを探し出すことはできますし、最も得るところが多いのはやはり専門家に直接話を伺った時です。³

あらためて強調しておきたいのですが、専門家への信頼がなくなっている理由は、現在の科学そして科学者のありようそのものが間違っているからなのです。その根本を直さずにコミュニケーターを置くことで解決しようとするのは間違いだと思います。

専門家の言葉を受けとめる社会の側も、「言葉の意味をよく考えることの大切さ」を改めて認識しなければなりません。とくに、新たな技術を標榜する新しいキャッチフレーズが独り歩きしがちです。生物学の関連で言うなら一九八〇年代に「バイオテクノロジー」という言葉が流行し、製造業だけでなく、出版社までその研究に参入するという事態になりました。しかし、どのような技術を用いて何を生み出すのかという明確な道筋もなく言葉だけが躍った感があり、その流れから確たる産業構造が生まれることにはなりませんでした。「よくわからないから無関心」でも「過剰に期待」でもない態度で、科学が明らかにした成果やそこから生まれた科学技術を、適切に利用できる社会を作っていくためには、社会を構成する一人一人が、自律的に、自分の感覚で、考えていかななくてはなりません。

今回、原発事故を機に関心が高まった「自然・再生エネルギー」という言葉も、自然エネルギーとは、再生とはと考えると、実際にそのエネルギーで社会を動かしていくには、社会のしくみを変えていくほかに見えてきます。現在のようない極集中型で大型化をめざす社会には、太陽光・風・水・地熱の利用のどれも向きません。地産地消型の小さな地域を基本に置き、経済価値からだけの評価ではなく、生活すべてからの評価で事が動く社会に変わらなければ、自然エネルギーの活用は無理です。

⑥こうした社会の方向転換が、専門家の力だけでなし得ないことは明らかです。けれども多くの人が、社会の変化の必要性には眼をつぶっているために、メガソーラーという自然・再生とは合わない方向へと大勢は動いています。ていねいな検討が必要です。そこでまず専門家が言葉を大切にし、誰にも話を通じるようにしなければなりません。高度の専門的内容そのものを理解させるというより本質を語れなければなりません。それには、専門家が専門の中だけにあるのではなく、聞く側の人と人間としての共通基盤がなければならぬと思うのです。しかも人間としての魅力を持っていたとしたら、それは素晴らしいことでしょう。

※設問のあとのマス目は、下書きに使ってください。

問一、傍線部①「そこを変えていかなければならないのか」というのが震災後強く感じたことです」とありますが、筆者は震災を通じて何を考え、その結果どのような必要性があると感じましたか。八十字以内で説明しなさい。

[illegible]

問二、傍線部②「神話」とありますが、ここでは次の〈例文〉と同じように比喩的な用法です。傍線部と〈例文〉とに共通する意味を答えなさい。(三十字程度で説明しなさい。)

〔例文〕
日本経済が成長し続けるという神話は崩れた。

[illegible]

問三、傍線部③「作家や画家や音楽家が自分の作品を世に出すときに、コミュニケーターを求めたりするだろうかと考えてみると、今の科学のありようの不自然さが見えてきます」とありますが、「今の科学のありようの不自然さ」とはどういうことですか。六十字以内で説明しなさい。

[illegible]

問四、傍線部④『専門家』に筆者が「 」をつけたのはなぜだと考えられますか。その理由としてもっとも適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 科学と異なり音楽は、専門家が社会の中で、特別な技能を持った存在だと認められていることを表現するため。

イ 科学と同様に音楽もまた、誰もが日常的に親しむためには、専門家による表現が必要であると気づかせるため。

ウ 小説や絵と異なり音楽は、専門家の演奏によって作品が享受されるが、その存在を科学の専門家と対比するため。

エ 小説や絵と同様に音楽は、専門家の力によって、人々の心を明るく豊かにできていることを伝えるため。

オ 小説や絵と異なり音楽は、様々な楽器や演奏方法が存在し、専門家の表現方法が多様であることを強調するため。

問五、傍線部⑤「論文という楽譜をいかに演奏するか、表現するか」とありますが、「論文という楽譜」を「演奏する」「表現する」とはどういうことですか。六十字以内で説明しなさい。

[illegible]

問六、傍線部⑥「こうした社会の方向転換が、専門家の力だけでなし得ない」について、筆者は専門家以外の人々はどうしているのかと考えていますか。六十文字以内で説明しなさい。

問七、本文に筆者は次に挙げる、手塚治虫の漫画『鉄腕アトム』の【歌詞】を引用しています。この【歌詞】は筆者の考えとどのように関わっているといえますか。【歌詞】を本文全体と照らし合わせたときに読み取れることとして、**適当でないもの**を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

【歌詞】

空を越えて ラララ 星の彼方
ゆくぞ アトム ジェットの限り
心やさしい ラララ 科学の子
十万馬力だ 鉄腕アトム

耳をすませ ラララ 目をみはれ
そうだ アトム 油断をするな
心正しい ラララ 科学の子
七つの威力さ 鉄腕アトム

町角に ラララ 海のそこに
今日も アトム 人間まもって
心はずむ ラララ 科学の子
みんなの友だち 鉄腕アトム

（谷川俊太郎作詞）

- ア 「町角に ラララ 海のそこに」の部分からは、科学が、人間の暮らしを含めた自然全体に目を配るべきであるという考えを読み取ることができる。
- イ 「人間まもって」「みんなの友だち」の部分からは、科学は人間の身近にあつて人間の生活を豊かにするものだという理想を読み取ることができる。
- ウ 「耳をすませ ラララ 目をみはれ」の部分からは、科学者が人間としての感覚を忘れずに科学と向き合うことの必要性を読み取ることができる。
- エ 「心やさしい」「心正しい」の部分からは、科学者は専門家としての知識や能力だけでなく、人間性も重要であるとの見方を読み取ることができる。
- オ 「十万馬力だ」「七つの威力さ」の部分からは、科学が、人間の力をはるかに超えた頼もしい威力に成長することへの期待を読み取ることができる。